

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会

第3回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ

日時： 平成 28 年 8 月 1 日（月） 14：00～16：00

場所： 釧路地方合同庁舎 5 階 第 1 会議室

----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) ワーキンググループの取組報告について
 - 2) これからの取組予定
 - 3) 自由研究や学習成果発表の場の活性化について
3. その他
4. 閉 会

----- 配布資料一覧 -----

○第3回湿原学習のための学校支援ワーキンググループ 資料

- ・ 資料 1 ワーキンググループの取組報告
 - 別紙 1 釧路湿原に関する学習素材の活用例
 - 別紙 2 北海道釧路湖陵高等学校SSH事業「KCS基礎」における野生動物研修、釧路湿原巡検 実施要領
- ・ 資料 2 これからの取組予定
- ・ 資料 3 自由研究や学習成果発表の場の活性化について
- ・ 参考資料 教員研修講座（7月7日開催）アンケート回答

○学校支援WG チラシ

出席者名簿（敬称略・順不同）

< 専門家 >

所属等	氏 名
再生普及小委員会委員長（前北海道教育大学釧路校准教授）	高橋 忠一 ○
北海道教育大学釧路校 准教授	境 智洋

< 学校教員 >

所属等	出席者
鶴居村立鶴居小学校	中川 道高 ○
鶴居村立下幌呂小学校	柴田 康吉 ○
釧路市立大楽毛小学校	武市 太一郎 ○
釧路市立鶴野小学校	深瀬 秀幸 ○
釧路湖陵高校	渡辺 理実 ○

< 学校教育行政機関等 >

機 関 名	出席者
北海道教育庁釧路教育局 教育支援課 義務教育指導班	指導主事 管野 裕介
釧路市教育委員会 学校教育部 教育支援課	指導主事 松本 孝也
	指導主事 富田 義宏
釧路町教育委員会 教育部 指導主事室	室長 田中 敏行
標茶町教育委員会 指導室	指導室長 佐々木 豊 ○
弟子屈町教育委員会 指導室	指導室長 須藤 光秋
鶴居村教育委員会 管理課 学校教育係	係長 新木 康司
環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	所長 安田 直人

< オブザーバー >

所属等	出席者
長野県岡谷市立神明小学校 （北海道教育大学釧路校研究生（長期派遣研修））	大熊 望 ○

< 事務局 >

機 関 名	出席者
環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	国立公園課課長補佐 杉本 頼優 ○
	釧路湿原自然保護官 寺内 聡 ○
公益財団法人北海道環境財団	事務局次長 久保田 学 ○
	環境教育推進課 山本 泰志 ○
	環境教育推進課 安田 智子 ○

ワーキンググループの取組み報告

1. 湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進

湿原を題材とした、学校教育で活用可能な学習素材をとりまとめて情報発信を行うとともに、効果的な支援方策を検討する。

○学習素材の情報発信

- ・ 釧路市立鶴野小学校における学習素材の活用例をとりまとめ、資料とともに WEB (<http://kushiro-ee.jp>) に掲載
- ・ 流域5市町村の教育研究所研修会、教員研修講座等での学習素材の周知

2. 自然再生の学校教育への活用促進

自然再生事業地を学習素材とした教員研修や、モデル授業の検討を行う。

○教員研修

- ・ 土砂流入対策実施現場(久著呂川)を活用した教員研修(釧路教育研究センターとの共催)

実施日時 : 2016年7月7日(木) 9時00分～15時40分
 実施場所 : 久著呂川湿原流入部、鶴居村中久著呂における再生事業地
 参加者数 : 小中学校教員13名
 主な内容 : 久著呂川湿原流入部における人工ケルミ、河床への土砂堆積の状況観察
 湿原へ流入する河川の状況観察
 鶴居村中久著呂における土砂流入対策事業地の観察
 ふりかえり(参考資料1)



○モデル授業

- ・ 鶴居小学校5年生理科「流れる水のはたらき」でのフィールド学習
 ⇒フィールド学習における活動案の提案、予行の実施、実施活動の検討
 ⇒フィールド学習実施時におけるレクチャー、安全管理

実施日時 : 2016年7月21日(木) 9時00分～11時30分
 実施場所 : 鶴居村中久著呂における自然河川部および土砂流入対策事業地
 参加者数 : 児童14名
 主な内容 : 蛇行河川における浸食と堆積の状況、流速等の観察

鶴居村中久著呂における土砂流入対策事業地での浸食状況の観察、災害（浸食）を防ぐ工夫の観察



- ・ 釧路湖陵高校 SSH 科目での釧路湿原を題材とした巡検に向けての調整

※巡検は 8 月 3 日及び 4 日（資料 2 参照）

⇒企画、情報提供、講師紹介、貸出資材の調整等

⇒担当教員等を対象とした予行の実施支援

実施日時 : 2016 年 7 月 14 日（木）9 時 30 分～16 時 00 分

実施場所 : 赤沼、久著呂川の湿原流入部及び浸食対策事業地

参加者数 : 教員 3 名、

北海道立教育研究所附属理科教育センター 研究研修主事 1 名

主な内容 : フィールドの踏査、使用施設の下見、所要時間の確認等



3. 学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及

フィールドを活用した教員研修を教育委員会と連携して企画、実施するとともに、湿原に関係する各種情報、現地見学会やモニタリング等の自然再生への参加機会等の情報を教員に届ける仕組みを検討する。

○教員への WG チラシ（添付資料）の配布

実績：流域 5 市町村の小中学校（教育委員会からの回覧物として）

釧路教育研究センター主催研修講座

鶴居村、釧路町及び標茶町教育研究所理科部会

釧路市博物館、釧路市湿原展望台、細岡ビジターズラウンジ、達古武オートキャンプ場、塘路湖エコミュージアムセンター、温根内ビジターセンター等でのチラシ配架、関心を持つ教員への取組紹介

○支援授業の実施（チラシを見て相談いただいた学校での授業等）

- ・釧路町立遠矢小学校 3 年生の総合的な学習の時間の支援

⇒講師紹介・調整、フィールドの予行

⇒フィールド学習におけるレクチャー、安全管理

実施日時 : 2016 年 6 月 22 日（水）9 時 20 分～13 時

実施場所 : 遠矢小学校、どんぐりの森公園（同学校徒歩 5 分）

参加者数 : 児童 32 名

主な内容 : フィールドでのレクチャー、身近な環境と湿原とのつながり講話



- ・釧路町立遠矢小学校 4 年生の総合的な学習の時間の支援

⇒出前授業

実施日時 : 2016 年 7 月 8 日（金）13 時 30 分～14 時

実施場所 : 遠矢小学校

参加者数 : 児童 6 名

主な内容 : 調べ学習で生じた、釧路湿原の自然や保護活動に関する質疑

- ・釧路市立鳥取小学校 3 年生の総合的な学習の時間における実践を支援

⇒フィールド学習におけるプログラム案の提案・調整

⇒フィールド学習実施時におけるレクチャー、安全管理

実施日時 : 2016 年 7 月 20 日（水）10 時 15 分～13 時 20 分

実施場所 : 北斗駐車場、温根内木道

参加者数 : 児童 62 名

主な内容 : 北斗駐車場でのレクチャー、温根内木道でのレクチャー



○教員研修の実施（チラシを見て相談いただいたものへの対応）

- ・弟子屈町教育研究所理科部会と連携した教員研修講座（座学）

実施日時：2016年7月4日（月）13時30分～16時00分

実施場所：弟子屈町立弟子屈中学校

参加者数：小中学校教員7名

主な内容：湿原の価値、流域視点の捉え方等を学ぶ学習プログラムの体験（紹介）
国立公園および自然再生事業における講話



釧路湿原に関する学習素材の活用例

鶴居村立鶴居小学校 教諭 中川 道高

久著呂川と釧路湿原のつながりの活用例（2016年鶴居村立鶴居小学校第5学年）

○学年・単元

小学校第5学年 理科『流れる水のはたらき』

○本時の目標

- ・実際の川（久著呂川）を観察して、川や川の周りの土地の様子を調べ、流れる水のはたらきについて考える。
- ・実際の川（久著呂川）を観察して、災害を防ぐ工夫について調べ、久著呂川と釧路湿原のつながりを考える。

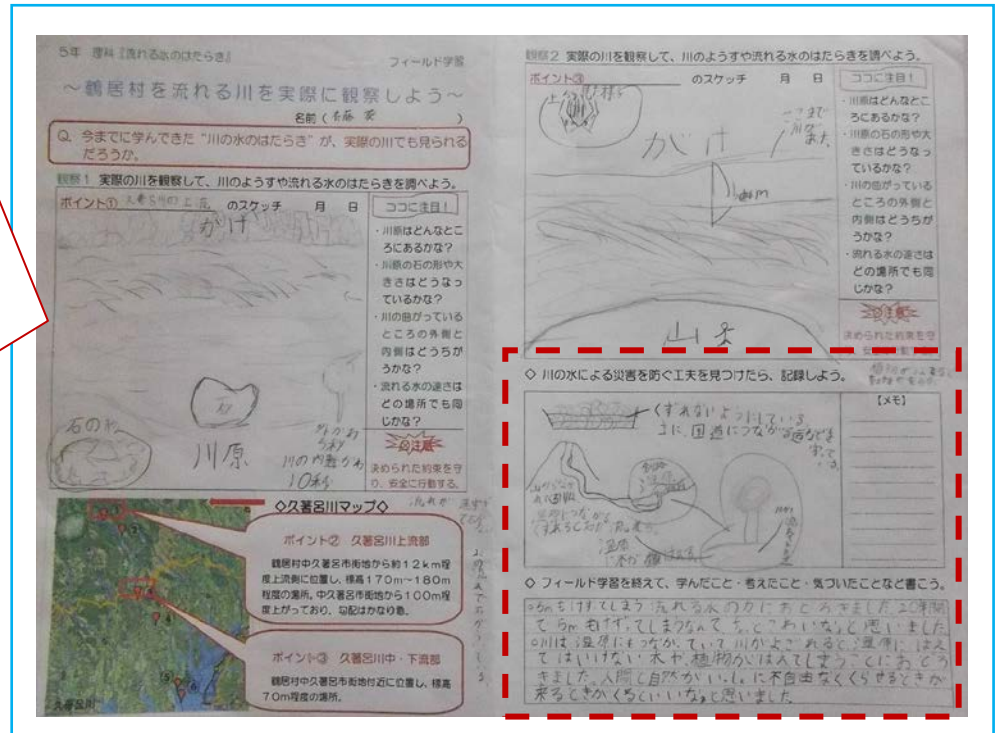
○フィールド学習指導計画略案

時 間・場 所	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
（朝学習の時間） 5年生教室 （1～3時間目） 久著呂川上流	○これまでの学習を振り返り、フィールド学習の目的を明確にする。 ○これまでの学習を活かして、地域を流れる久著呂川上流を観察する。 ・観察計画 ・計画をもとに、川の様子を観察 ・流速目視確認と体感体験	・川の曲がっているところの外側と内側、川原の石の様子、災害を防ぐ工夫など、具体的な観点を示して、観察・記録ができるように助言・援助する。 ・流速を確認する道具とストップウォッチを使って確認させる。 ・実際に膝下まで川に入り、体感で流れの速さを確認させる。
		
	・水中観察と川原の生き物探し 	・防水ビデオを使って水中を撮影し、プロジェクターに映して、堆積の様子を確認させる。 ・水辺の事故、転倒、道具の扱いなど、安全指導を徹底する。川の環境保全にも配慮する。

久著呂川中流	○これまでの学習を生かして、地域を流れる久著呂川中流を観察する。 ・観察計画 ・河岸散策 ・計画をもとに、川の様子を観察	・自然河川との共通点や相違点を意識しながら観察するようにし、気づいた点をワークシートにメモさせる。 ・本来の河床の高さは河畔林が生えている場所であること、(測高ポールによる計測で) 5m程度河床が下がっていることに気づかせる。
		
	○流れる水のはたらきの発展的学習 ・川の水による災害を防ぐための工夫が古くから行われてきたことを知り、防災・減災のための取り組みや備えの重要性を再認識する。 ・一方で、川や川原に見られる生き物に対する配慮が必要であることにも考える。 ○久著呂川と釧路湿原のつながりを考えるとともに、再生事業との関わりを考える。 ・削られた土砂はどこに運ばれていたのかを話し合う。	・『なぜそのような工事が行われたのか』、『その工事によって何が改善されたのか』、『生き物にとってどんな良いことがあるのか』などを考えさせる。 ・久著呂川と釧路湿原のつながりを考えさせる。 ・20年程かけて浸食されてきたことや、土砂の浸食を防ぐために川幅を広げたり、川の底を工事したりする事業が行われていることを補足説明する。 ・久著呂川の水は釧路湿原を流れ、最後は釧路川に流れていくことを伝える。
		
(4時間目) 5年生教室	○観察したことや考えたことを発表し合い、流れる水のはたらきや、久著呂川と釧路湿原のつながりについてまとめる。	・これまでの学習を振り返り、流れる水のはたらきについてまとめさせる。また久著呂川と釧路湿原のつながりについて、考えたことがあれば書くように伝える。
評価の観点と方法	【技能】川原や崖ができていく所の様子を観察して、流れる水のはたらきや災害を防ぐ工夫について調べ、記録している。〔行動観察・記録〕	

○ワークシート

久著呂川と釧路湿原とのつながりについては、発展的学習（ $+\alpha$ ）であったので、今回のワークシートにその記述欄は設けなかった。しかし、児童は、環境省の寺内さんや環境財団の山本さん・安田さんからの話を聞いて、わかったことや印象に残ったことなどをワークシートの余白にメモしていた。また、フィールド学習後のまとめ＆感想欄にも久著呂川と釧路湿原に関する記述があった。



○フィールド学習を終えての子どもたちの感想

- ・正直、川のことは全然興味がなかったけれど、今回の学習を通して川のことを考えるようになった。
- ・川の水は最終的に湖や海に流れ着くと思っていたけれど、久著呂川は釧路湿原につながっていることを知ってびっくりした。これからは、川に行ったときに川のいろいろなことを考えてみようと思った。
- ・久著呂川が釧路湿原と関係していて、川をずっと行くと湿原があると考えたらすごく驚いた。
- ・久著呂川にポイ捨てすると、釧路湿原に流されてしまい、それをタンチョウが食べてしまうと病気になったり死んでしまったりすることがわかった。
- ・久著呂川は釧路湿原につながっていて、浸食された土砂が川と一緒に流れると、湿原に生えてはいけぬ木や植物が生えてしまうことに驚いた。
- ・人間と自然と一緒に不自由なく暮らせるときがくるといいなと思った。
- ・自然と人間の生活を守るのは難しいと思った。
- ・生き物と人のバランスが難しい。自然をなるべく壊さないようにして川を再生していることを知った。
- ・久著呂川は釧路湿原につながっていて、川の影響で湿原の生態系も崩れてしまうことがあると知って驚いた。そのために、土砂が流れないようにする事業が行われていることも知った。
- ・今回の授業で、いろいろな視点から川のことを学ぶことができ、将来の夢（環境省で働くこと）につながるものであった。
- ・今回の授業で、自然が少し好きになった。

○授業を終えての教師の振り返り

フィールド学習を単元の最後に位置付けることで、これまでに学習したことを実際の川を通して確認することができた。また、発展的な学習（ $+\alpha$ ）として、『浸食によって削られた土砂はどこに流されるのだろうか』という新たな問いから、久著呂川と釧路湿原のつながりや課題を考えるきっかけとなり、再生事業についても考えを広げることができた。今回のフィールド学習は、子どもたちに体験的な活動の機会や多面的・多角的な視点を与えることができ、とても有意義な学習プログラムであった。

北海道釧路湖陵高等学校SSH事業「KCS基礎」における
野生動物研修、釧路湿原巡検 実施要領

1 目 的

北海道釧路湖陵高等学校SSH科目「KCS基礎」において、北海道東部の自然環境における野生動物と人とのかかわりの現状について学ぶとともに、環境科学における科学的な探究手法や現在の課題について現地の状況等を見学することにより、北海道東部の自然環境について効果的な探究課題を設定する方法を学ぶ。

2 期 間 平成28年8月2日（火）～4日（木）

3 参加生徒 理数科1学年 41名（男子25名、女子16名）

4 研修場所

- (1) 北海道釧路湖陵高等学校 地学教室（8月2日）
- (2) 釧路市立博物館（8月3日、4日）
- (3) 釧路湿原 温根内ビジターセンター、赤沼、久著呂川 等（8月3日、4日）

5 講 師

- (1) 坪田 敏男 氏（北海道大学大学院獣医学研究科教授）
- (2) 服部 薫 氏（国立研究開発法人 水産研究・教育機構 北海道区水産研究所
資源管理部高次生産グループ主任研究員）
- (3) 新庄 久志 氏（釧路国際ウェットランドセンター技術委員長）
- (4) 寺内 聡 氏（環境省 釧路湿原自然環境事務所釧路湿原自然保護官事務所 保護官）
- (5) 釧路市立博物館学芸員

6 運営協力

釧路湿原自然再生協議会 再生普及行動計画オフィス
(受託団体：公益財団法人北海道環境財団)

7 引率教員（北海道釧路湖陵高等学校）

1年1組担任 元島 和明
SSH推進部 渡邊 理実 菊地 貴広 田島 芳

8 日 程

- (1) 8月2日(火) 講師：坪田 敏男 氏
 14:00～16:00 講義1：「北海道に棲む野生動物の生態と保護管理」
 (3F 地学教室) 講義2：「クマの生理・生態」

(2) 8月3日(水)

グループ1 (釧路湿原巡検)		グループ2 (講義・演習)	
8:00	湖陵高校集合(バスで移動)	9:30	釧路市立博物館 集合
9:00	温根内ビジターセンター	9:40～10:40	講義「道東に生息する海獣類
9:00～12:00	着	10:50～11:50	と人間の関わり」
12:30	フィールドワーク(赤沼周	11:50～12:50	(昼食・休憩)
13:10	辺)	12:50～14:50	講義・演習
13:50～15:00	下幌呂コミュニティーセンター (昼食・休憩)	15:00～16:50	「海獣類の生態について」
	久著呂川へ出発	17:00	講義・演習
	フィールドワーク		「釧路湿原について」
16:00	(久著呂川流域の3地点)		解散
17:00	休憩場所：中久著呂コミュニティーセンター		
	鶴居村役場 着		
	湖陵高校 着・解散		
講 師	新庄 久志 氏 寺内 聡 氏 坪田 敏男 氏(8月3日のみ)	講 師	服部 薫 氏 釧路市立博物館学芸員
引率教員	元島 和明 菊地 貴広	引率教員	渡邊 理実 田島 芳

(3) 8月4日(木)

グループ1：講義・演習(釧路市立博物館)

引率：渡邊・菊地

グループ2：釧路湿原巡検 巡検内容、時程は3日目と同様に実施

引率：元島・田島

※解散場所：釧路市立博物館(クラスでまとまって解散する。)

これからの取組み予定

1. 湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進

○フィールド情報マップの作成

- ・鶴居小および湖陵高校のモデル授業、教員研修講座等の内容を取りまとめ、フィールド情報マップとしてWEB (<http://kushiro-ee.jp>) に掲載。
(フィールドの概要、実施内容、講師等)

○教員への周知活動

- ・引き続き、流域5市町村の教育研究所理科部会を中心に教員への周知活動を実施。

2. 自然再生の学校教育への活用促進

○モデル授業の実施

- ・釧路湖陵高校 SSH 科目での釧路湿原を題材とした巡検の実施支援

実施日時 : 2016 年 8 月 3 日 (水)、8 月 4 日 (木) 9 時 00 分～16 時 00 分

実施場所 : 赤沼、久著呂川の湿原流入部及び浸食対策事業地

参加者数 : 学生 41 名 (予定)

主な内容 : 赤沼における湿原環境の体感・理解促進

久著呂川湿原流入部における人工ケルミ、河床への土砂堆積の状況観察

湿原へ流入する河川の状況観察

鶴居村中久著呂の土砂流入対策事業地での浸食状況、事業地の観察

○教員研修の実施

- ・達古武湖自然再生事業地を活用した教員研修 (現地見学会) の実施

実施日時 : 2016 年 9 月 4 日 (日) 13 時 00 分～16 時 30 分

実施場所 : 釧路町達古武

参加対象 : ワーキンググループ構成員、流域の小学校・中学校・高等学校教員

主な内容 : 自然再生事業地に係る説明、カヌーによるヒシ観察、事業地見学

達古武川上流の湿原環境の観察 (検討中)

○自然再生を題材とした学習素材の検討

- ・再生事業地を活用した学習素材創出 (次年度以降) に向けて、実践校および達古武湖オートキャンプ場やビジターセンター等に来訪する学校等を対象とした意見交換

3. 学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及

- ・流域5市町村の教育研究所理科部会等における意見交換、本 WG の取組み紹介、メールニュース配信希望者への情報発信
- ・理科部会等との連携講座実施の検討・実施
- ・流域5市町村の高校教員への情報発信

- ・自由研究や学校での実践内容等、子どもたちの取組みの発表の場づくり、学びの支援を通した学習の活性化（資料3）

自由研究や学習成果発表の場の活性化について

学校における湿原学習の活性化および普及を図るためには、学校現場のニーズに沿った形で、湿原の流域環境を題材とした学習の仕組みづくりを行うことが必要である。このことから、次期学習指導要領改訂（小学校 H32、中 H33、高校 H34 に全面実施）で重視される考え方を踏まえ、湿原の流域環境を題材とした、能動的な学修の促進、問題を見出す力、まとめて考察する力等の育成に資するとともに、生徒の学習意欲の向上を図る仕組みづくりを目指す。

今年度については、生徒に例示する、とりまとめ方法のフォーマットや評価の基準を検討するとともに、実践校の学習発表会において、専門家による評価・生徒へのフィードバックを試行的に実施し、効果的な仕組みづくりについて検討を行う。

1. 実践校における意向の把握

- ・ 学校現場の状況や教員の意向をヒアリングし、仕組の検討に反映
 - ⇒ 学校外の者に向けて発表する機会を創出することは、学習への動機付けとして有効
 - ⇒ 自由研究に比して、総合的な学習の時間では学習可能な内容に制約がある
 - ⇒ 学習をとりまとめる力、発表する力が身につけていない生徒にとっては難しい
 - ⇒ 専門家が良い点、課題点を評価してあげることで、学習効果も高まる
 - ⇒ 総合的な学習の時間の成果発表は 2～3 月となる

2. 試行的な実施を通じた仕組みの検討

- ・ 1～2 校程度の実践校を対象として、専門家による発表会での評価を試行的に実施し、得られた成果や課題を踏まえて仕組の検討を進める。
- ・ 今年度は、とりまとめ方法の例示、外部専門家による評価、優秀な成果発表の表彰を試行する。
- ・ 地域に根ざした仕組みの構築を目指し、学習のフォロー、成果発表会での評価、地域での発表会の実施等の協働実施の可能性を有する地域の主体（施設、団体等）との意見交換を行う。

教員研修講座(7月7日開催)アンケート回答

No	感想、ご意見	訪問フィールドを活用した学習活動として考えられる内容
1	釧路湿原の今とそれまでの歴史、成り立ちを聞きながらのフィールドワークは楽しかった。座学、体験が切り離されたものではなく同時にあると直感的に理解しやすい。	教科横断型の授業展開が考えられる。一度、湿原を訪れることで切り口は様々。今日だけでも鳥・土・植物・虫・川・木など総合的な学習の時間だけではなく、読み物→国語、計算→算数と扱うポイントによってたくさんの見せ方が考えられると思う。
2	湿原の成り立ちが考えていたものと全く違って、農地改革から出来てしまったものだという事を知り、驚きました。しかし、今の湿原が大切な自然の一部になっている以上、うまく共生し、守っていかなければならないものであるということも理解でき、よかったです。守るための様々な工夫を知ることも、とても興味深く、勉強になりました。	湿原についてまとめて、新聞づくりを行う際に、自然の特徴などだけではなく、守るための努力の方向や歴史からも、子どもたちに調べてもらうことができるなと思いました。
3	初めての参加でした。（参加経験のある同僚の推薦）理科専門ではありませんので、ちょっと難しかったというのが正直なところです。身近にある湿原で今起きていることを実際に現地で見えて解説もしていただき（100%理解できていませんが）参加して良かったと思います。	現地を今日のように訪れて、フィールドワークができたらいいですね。子どもの目線で何を感じ取るのか、楽しみなところですよ。写真で見せてなぜこのようなことが起きているのか、考えさせるだけでも学びがありそうです。これまでの学習で得た知識を生かす、湿原保全だけでなく環境について広く総合的につながる学習ができたらいと思います。具体的にはまとまりませんが、最後に子ども達がアクションを起こすような学習ができたらいと思います。
4	毎年参加させていただき、毎年いろいろなことを勉強させていただき、ありがとうございます。今年は、人工的に造られた河川が、自然に大きな影響を与えていることや、人々の暮らしに影響していることがわかりました。自然と共に生きていくためには、難しい問題がたくさんあるのだとつくづく感じました。	児童数の少ない学校であれば、小型のバスなどで来られそうですが、児童数の多い学校ではなかなか難しいと思いました。やっぱり温根内のビジターセンターがちょうど良いのかなと思います。ビデオに撮って活用することは可能だと思いました。人工的に作られた河川が人々の暮らしに与える影響や湿原に与える影響なども子どもたちに伝えることができそうです。

No	感想、ご意見	訪問フィールドを活用した学習活動として考えられる内容
5	湿原流入部の土砂調整地を見学する事ができてたいへん勉強になりました。関連市町村の似たような場所があれば、ぜひ見てみたいと思いました。 新庄さんには、いつも楽しいお話を聞かせていただき感謝しております。	社会で、湿原を保全していく取り組みを副読本（別印刷資料）にし紹介する（中学年）。釧路川の治水工事の歴史と、現在の土砂流入を防ぐ取り組みを「社会」の中で学習する。やっぱり、現地を子ども達に見せたいですね。見るだけでも大きなインパクトがあり、将来にわたって、意識を高めるきっかけになるはずだと思うのですが。
6	今日は、ありがとうございます。湿原の中に入っていくという体験はなかなか出来るものではないように思います。とても楽しく参加させていただきました。前回参加した時に、川の中に入って、生き物を調査するという体験をさせてもらいました。今年、阿寒小に来て、学校の裏に川があり、入ることが出来ると知りました。子どもたちと川に入って活動する時のためにと今度今度参加しました。少し、私が思っていたねらいとはズレましたが、いい体験でした。一度聞くだけでは難しいことも、実際に見て、体験することは大事だと改めて感じました。ありがとうございます。	阿寒小なら、川やすぐ近くの自然と結びつけて、児童と活動したいと考えています。特に、川の生き物調査などは今年、どこかのタイミングで行いたいと考えています。
7	釧路湿原が抱えている課題が実際に自分の目で見られたことが良かったです。特に下流から上流へという流れの中で、まずは土砂が流出している場所を見て、次に河岸が侵食されている場所を見られてことで、とても切実にこの課題をとらえることができたと感じました。また、再生に関わる方々の願いや思いも感じられました。子ども達に体験させてあげたいです。	総合的な学習の時間の題材として活用できると思います。ただ、総合は対象への思いを持つことがとても大切になるので、子ども達がどのような形でも湿原のすばらしさを体験できる学習活動を設定し、「湿原ってすごい」という思いを抱くことが必要だと思いました。その後、湿原の抱える問題を知り、自分達にできることを考えていければ総合の最終的な目標である「自らの生き方を考える」に達することができると思いました。その視点で考えても今日のお話は非常に貴重でした。
8	実際に現場を見ながら専門家の方の話を聞くと、理解がとても深まります。毎回（ほぼ）参加させていただいているので、少しだけ欲を言うならば、そのことに関わる方の（例えば、酪農家さん、土木の人など）やっている人なりの苦労や思いが聞けるともっと良かったなと思いました。天気に恵まれ、とても充実していました。新庄さんの、変化のスピードが問題なのだというメッセージが強く心に残りました。	3、4年生の地域の学習（社会）での地域の人のくらし。理科の川の流れ（環境分野）（流れる水のはたらき）。総合。※個人的には教科の個別的な理解もありますが、総合的な学習などで、そこで生きる者としてどう生きていくのかということを考えなければというメッセージを伝えたいと思います。

No	感想、ご意見	訪問フィールドを活用した学習活動として考えられる内容
9	午前のフィールドワークは五感を刺激される素晴らしい活動だったと思います。植生の変化、野鳥の鳴き声、右岸と左岸の景色の違い、足元のぬかるみ具合など、湿原に対する新しい視点を持つことができました。やはり、実際に現場を訪れて、自分の目で見て感じることで、体験を通して得た実感が、子どもたちに伝える時の説得力につながると感じました。午後は見学だったのですが、「人間の営み」と自然への影響、関りを考えさせられました。	子どもに湿原に入ってもらい、私たちが感じた様々な変化（左記）を体感してほしい。これにまさる教材はないと感じました。社会科の学習として「持続可能な社会」を考えるものが良いと思います。環境保全、地域の開発、地場産業、地域住民、行政がそれぞれどんな思いや願いを持ちどのようにすり合わせるか（合意形成）を子どもたちに考えてもらうことが重要だと思います。
10	「源流部」に興味を持って参加した。河川の浸食作用はよく理解できた。国の工事の結果が目に見えにくい。時間がかかるという性質のものゆえに、明確な結論を出しにくいことがわかった。教育現場に活かせるものは多種有ると思ったが、安全配慮など課題が多い。	「ドローン」などを利用して空中から蛇行河川の変化「変遷」を捉えてみてはどうか。映像を生徒に見せると興味をもつと思います。鳥や植生のコツを学ぶ絶好のフィールドであると感じた。キャンプなどの企画があればよいと思う。
11	身近な所で再生事業が行われていることを初めて知りました。貴重な財産である湿原を守るために、行動していくことの大切さを感じました。新庄さんから子どもと来た時にはこんな感じのことをしたらいいのでは、という実践の話も聞けて、イメージがもてました。1日中新庄さんにいてもらいたかったです。	ふるさと学習や総合的な時間の学習で、子ども目線から豊かな想像力を用いて、再生について湿原のあり方について考え合う活動。植物や鳥など生物に触れる。川の学習。
12	今の湿原におきていること、それに対してどうしていくべきなのか、模索しながら、取り組まれていること知ることができ、釧路湿原について知ることができ、よかったです。	川の流れの学習の中で、浸食されているところなど見学しながら、その土砂がどうなっているのか、それが環境にどう影響していくのかといった学習。総合や社会で、学習していけると良いのではと思いました。
13	普段カヌーなどで湿原周辺に足を踏み入れることはあるのですが、自然再生という視点で湿原や河川を見たことはなかったのととても貴重な経験になりました。	流れる水のはたらき（理科）、郷土学習（社会）、総合的な学習などで活用できると思います。が、釧路の子たちの（大人も）大半は自分たちの住んでいる間近にすばらしい自然環境が広がっていることを意識できていないように思います。引率して現地に入っていくのは難しいとしても、教師が、今日のような経験を言葉、写真、映像などで子どもたちに伝えて、少しでも身近にある自然の尊さ、すばらしさや人間の営みとの関わりに気づかせることが大切なのは、と感じました。